

# 揺蕩う

2025年2月19日

ver. 0

作者名 .. 普照萌生

## 「揺蕩う」・登場人物表

相沢世奈 (16)  
久野未央奈 (17)  
西山陽菜 (16)  
草間優真 (20)

高校生。  
世奈のクラスメイト  
世奈のクラスメイト  
未央奈のバイト先の先輩。

藤田斗真 (20)  
こころも (16)  
ゆめ (16)  
ゆき (16)  
みゆ (17)  
母 (43)  
水原清志 (33)  
アルバイトA (19)  
アルバイトB (20)  
社員 (27)

優真の友達。  
陽菜の友達  
陽菜の友達  
世奈の友達  
世奈の友達  
未央奈の母。  
世奈たちのクラスの担任。  
未央奈のバイト先の同僚。  
未央奈のバイト先の同僚。  
未央奈のバイト先の上司。

「揺蕩う」・慷慨・あらすじ

19歳の相沢世奈は、学校でも家庭でも恵まれた環境にいるが、<sup>2</sup>年前に亡くなった母親のことを内心でずっと引きずっている。誰にも言えない寂しさを抱えたまま日々を過ごしていたが、同じクラスメイトで周囲から孤立している久野未央奈と出会い、奇しくもお互いに心のうちを共有し合うことになる。初めて誰かに打ち明けられたこと、また似たように親からの愛に飢えていた未央奈に「仲間ができた」と特別な絆が芽生えた矢先、未央奈に彼氏ができる。当然それは喜ばしいことのはずだが、だんだんと<sup>2</sup>人の関係は拗れ始め、そんなすれ違いに世奈は戸惑う。

1. 2年B組教室・午前8時・内

教室内廊下側：陽菜(16)、ゆあ(16)、ここあ(16)

中央：相沢世奈(16)、みのり(17)、さぎ(16)

窓側端っこ：未央奈(16)が机に突っ伏して寝ている。

世奈たち3人が談笑している。横から大声がしてそちらへ意識が向く。

ここあ

「まじ?」

陽菜慌てて心愛の肩を掴んで、口に指を当てる。

陽菜

「しー!声でかいよ。」

またヒソヒソと話し始める陽菜たち3人。

世奈たちはすぐ顔を戻し、その場に少し気まずい沈黙が流れる。

世奈がふと窓側へ視線を向けるとイヤホンを取り出し耳につけ、また机に突っ伏す未央奈の姿が目に入る。

2.

面談室・夕方・内

水原清志(33)と向き合う形で座っている世奈。

水原は帳簿を手に何か書き込んでいる。

「じゃあ特に変わったこととかないか?」

「はーい。」

「(軽く答える様子で)おっけーい。」

水原

世奈

帳簿を書き進める水原。

世奈

「…。」

動く水原の手を見つめる世奈。迷いを振り払ったように話し始める。

世奈

「あの、修学旅行なんですけど、ちょっと行けないかもしれないです。」

水原

「(手を止めて) なんかあるのか?」

世奈

「(少し言いづらそうに) 母の三回忌があつて。」

水原

「あー、そうか。うーん。」

少し考え込み、持っていた帳簿を机において少し身を立て直す水原。

水原

「こんなこと言うのもあれだけど、いいのか? 一生に一度だぞ? おまけに最後かもしれない。」

世奈

「…。」

水原

「まあ、まだ時間はあるからもうちょっと考えてみてもいいんじゃないか。」

x

x

x

面談室の扉を開けて出てくる世奈。

扉のすぐ横に立っていた未央奈とぶつかりそうになる。

世奈

「あ、ごめん。」

未央奈

「いや、大丈夫。」

すぐに面談室へ入っていく未央奈。

中からうっすらと声が聞こえてくる。

カバンを背負い直し、急いで歩き出す世奈だったが、すぐに何かを思い出したように踵を返し、小走りで去っていく。

ここあ

「てかさー陽菜やばくない？」

ゆあ

「えっ思った。高橋あんまいい噂ないのにね。」

ここあ

「それな。流石に知ってるよね陽菜も。てか普通に気まずかったわ今日。」

ゆあ

「それな。でも流石に付き合いたてであいつやばいよとか言えない。」

世奈がトイレから出てくると不自然な沈黙が流れる。急いで手を洗い出ていく世奈。

みのり

世奈、さき、みのりの3人で並びながらダラダラと歩いている。

「世奈、今日の面談どうだった？」

世奈

「うーん、特には何も？」

さき

「えっ！成績のこととか言われなかったの？」

世奈

「うん。」

みのり

「違うよ。世奈は頭いいから。」

世奈

「いやいやいやい…。」

さき

「親とかにも何も言われないの？」

世奈

「うーん、うん。」

せき

「いいなー。うちのママめっちゃうるさいよ。」

みのり

「わかる。ママってそうだよね。この前さ…」

そのまま話が盛り上がるさきとみのり。

世奈

「…。」

5.

相沢家・夜・内

家に帰ってきた世奈。ダイニングの電気をつけ荷物を置く。

携帯からブーという通知音がなり、父からのメッセージを開く。「今日は夜いらないです。冷蔵庫の中にサラダとキッチンにおかずが作って置いてあるのでそれ食べておいてください。」  
キッチンへ向かう世奈。おかずとサラダを取り出して、食卓へ置く。その前に座り、手を合わせる。

世奈

「(誰もいない中で呟く) いただきます。」

6.

塾・夜・外

塾から出てくる世奈。自転車のカゴに荷物をいれ、押して歩き始める。

7.

公園・夜・外

自転車を押しながら歩いている世奈。ふと公園の中に目を向けると一人でベンチに腰掛ける未央奈に気が付く。通り過ぎようとそのまま何歩か歩いたところでピタッと動きをとめ、今度はベンチに向かって歩みを進め、未央奈に近づく。

未央奈の斜め後ろに立ち、声を掛ける。

「久野さん？」

未央奈が振り返り世奈の顔を見つめる。

「あ、相沢です。同じクラスの…。」

世奈

未央奈キョトンとした様子。

未央奈 「世奈さんって苗字じゃないの？」

世奈 「え、うん。相沢です…。」

未央奈 「…なんかの帰り？」

世奈 「うん、塾の。」

未央奈 「ふーん。」

未央奈、顔を正面に戻す。

世奈 「久野さんは？なんか用事とか？」

未央奈 「ううん。…家、居たくなって。」

世奈 「そうなんだ…。」

世奈、立ち往生していると。

未央奈 「…世奈さんってさ、修学旅行行かないの？」

世奈、顔をバツと上げる。

世奈 「えっ。」

未央奈 「ごめん、今日の面談の時ちよつと聞こえちゃって。」

世奈 「あ…うん。まだ決まってるけど…。」

未央奈 「水原にもうちよつと考えてみるって言われたんですよ。」

世奈 「(苦笑) うん。」

未央奈 「あいつマジでしつこいからね。一生で一度とか言ってるけど、どうせ平等じゃないからってことでしょ。嫌でも皆行くんだから、お前らも休むなよって。」

世奈 「…久野さんも行かないの？」

未央奈 「うん。うちは親に金出さないって言われたし。」

世奈 「そっか…。」

未央奈 「世奈さんは？なんで行かないの？」

世奈 「えっ…と。」

未央奈 「…てか、座ったら？」

世奈、急いで自転車をその場に止め、少し間を空けて未央奈の横に座る。

世奈 「うちは…身内の法事があって。」

未央奈 「身内？」

世奈 「うん…三回忌だから。」

未央奈 「…ふーん、なるほどね。」

顔を正面に戻す未央奈。

世奈 「…。」

未央奈 「水原ってさ、悩んで寄り添ってる風だけど自分が求める答えしか受け付けないやつだから…うちは絶対行かないし。」

世奈 「(苦笑)」

未央奈 「世奈さんもさ、無理に行かなくていいよ。」

世奈 「…うん。ありがとう。」

8. 教室・朝・内

ほとんど誰もいない教室に入ってくる世奈。すぐに机に突っ伏して寝ている未央奈の姿が目に入る。声をかけようか迷ってゆっくり近づくが、寝ている様子を見て、そのまま通り過ぎ自分の席に着く。

斜め前と斜め後ろの〇人の位置関係。

9. 公園・夕方・外

世奈、みのり、さきの3人での帰り道、公園を通りかかる。〇人が話している中、昨日のベンチに

少し目をやる世奈。(誰も座っていない)そのまま通り過ぎる。

10.

塾へ向かう道中・夜・外

コンビニに置かれた自転車。袋を持って店から出てくる世奈。かごにカバンと袋を入れ、自転車を押し、歩き始める。周りには飲食店が多く、賑わっている。

未央奈

「ありがとうございましたー！」

斜め前の店に、パッと意識が向く世奈。

そこには未央奈の働く姿があった。

11.

帰り道・夜・外

塾からの帰り道、自転車を漕いでいる世奈。公園の近くに人影を見つけ、スピードを緩める。

世奈

「未央奈ちゃん？」

未央奈

「…。」

世奈

「どうしたの？」

未央奈

「別に。なんでもない。」

世奈

「…。」

未央奈

「…じゃあね。」

その場からすぐに立ち去る未央奈

世奈

「あ、うん…。」

その背中を見送る世奈。

12.

通学路・朝・外

トボトボと歩いている世奈。公園の前に来ると、チラツと中に目をやる。誰もいないのがわかるとまた視線を地面に落とし、そのまま歩き進める。

未央奈

「おはよ。」

世奈、顔を上げると未央奈が壁にもたれ掛かっている。

世奈

「おはよ…。」

世奈、驚いたまま。

未央奈

未央奈、壁から背を離す。

未央奈

「今日、暇？」

13.

電車・昼・内

電車の中で隣同士、微妙な隙間を挟み座っている世奈と未央奈。世奈は正面を見つめ、未央奈は窓の外を見つめている。

14.

海辺・昼・外

\*考え中

浜辺へ入ってくる2人。

未央奈

「うおー、海だー。」

未央奈

未央奈の後に世奈が続く。

未央奈

未央奈、海を前に思い切り伸びをする。

未央奈

「はあ〜。」

世奈

「気持ちいいね。」

x

x

x

海辺を歩く人。先に未央奈、その後ろに世奈が  
続く。

未央奈 「ごめんね、今日。」

世奈 「ん？」

未央奈 「学校サボらせちゃって。親とか大丈夫？」

世奈 「いやいや…。多分、大丈夫。」

未央奈 「そ？」

未央奈、海辺から離れて石段に近づき座る。後に  
続く世奈。

未央奈 「久しぶりに海来た。」

世奈 「ね。」

未央奈 「…今日なんで着いてきてくれたの？」

世奈 「え？うーん…。」

15. 駅のホーム・夕方・外

ベンチに横並びにボートと座る、疲れた様子の  
人。

終始無言だが、世奈は満足気な表情を浮かべてい  
る。

電車の音。

16. 公園・夜・外

ゆっくりと歩いてくる2人。

自然と人の足が止まる。

お互い体を向ける。

世奈 「じゃあ、バイバイ。」

世奈、手を振る。

未央奈 「うん。」

未央奈、小さく手を振り返すと体を翻し、歩いていく。

世奈も軽い足取りで歩き始め、嬉しそうな表情を浮かべている。

17.

久野家・夜・内

未央奈、玄関のドアを開け、靴を脱ぐ。

自室へ向かうのに居間を通り抜けようとする。

「あんたどこ行ってたの。」

少しピクツと肩が揺れる未央奈。

「…。」

「学校から私のところに電話かかってきたんだけど。何勝手なことしてるの？」

「別に。関係ないでしょ。」

「関係ないわけではないでしょ！こうやって私に迷惑かかってんのよ！どういうつもりなわけ？！」

「…。」

「答えなさいよ！」

「自習室。テスト近いから。」

母 「…次勝手なことしてみなさい。ただじゃ置かないから。」

母、居間から出ていく。居間には未央奈一人になる。

未央奈、自分の部屋に入り、鞆をその辺に放る。  
ベッドに倒れ込むと枕の下に自分の頭を埋め、上  
から抑える。

18.

教室・昼・内

昼休みの時間。周りがお弁当を食べる中、イヤホ  
ンを耳につけ机に顔を埋めている未央奈。

上半身を伏せた状態のまま、ふと顔が左に向けら  
れ、未央奈の目が開いていたことがわかる。窓の  
外は曇り空で灰色が広がっている。

19.

飲食店・夕方・内

空いたお皿を手に、厨房に入ってくる未央奈。そ  
のまま流し場へ持っていき、溜まった食器を洗い  
始める。少し離れたところでしゃべっているアル  
バイトA (19) とアルバイトB (20) 。

その横を食器カゴをもった未央奈が通り抜ける。  
それを避けるアルバイトAとアルバイトB。

食器を片付ける未央奈。その横にスツと立ちカゴ  
から食器を取り出す草田優真 (21) 。

少し優真の方を見るが手を動かし続ける未央奈。

「おい優真、お前〇番卓のオーダー取り行った  
か！」

優真、振り返って。

「すみません！すぐ行きます！」

優真、持っていたお皿をおきながら

「ごめんね。」

と走り去っていく。

未央奈、少し目で追いまた手を動かし始める。

20.

帰り道・夜・外

\*考え中

未央奈、自転車を押す優真と二人で並んで帰っている。

未央奈

「…怒られてましたけど。」

優真

「(苦笑)。一つのこと考えちゃうと、次のこと忘れちゃうんだよね。未央奈ちゃんはあるだね、完全にしごきタイプだね。」

優真

「まあ、なんか困ったことあったら頼ってよ。」

未央奈

「…。」

優真立ち止まり、自転車にまたがる。

優真

「じゃ、俺ここだから。気をつけて。」

未央奈、ぺこりと頭を下げる。

優真、自転車に乗り去っていく。

その後ろ姿をじっと見つめる未央奈。

21.

公園・夜・外

未央奈、メッセージアプリで優真と連絡を取り合っている。

世奈は横で缶ジュースを飲み、横目で未央奈の様子を伺っている。

世奈

「どうしたの?」

未央奈

「ん？なんでもない。」

世奈

「なに？…もしかして、例の先輩？」

未央奈の顔を覗き込む世奈。

未央奈、携帯をいじったまま。

未央奈

「…うん。」

世奈

「えっ！？メッセージ続いてたんだ！」

未央奈

「一応だけど。」

世奈

「えーじゃあ“脈あり”、じゃない？」

少し顔を上げる未央奈。

未央奈

「…違う、多分。普通に後輩って感じ。」

世奈

「ふーん。でも続いているってことはありそうだけどなあ。」

また携帯に目を落とす未央奈。

未央奈

「…。」

世奈、空を見上げる。

世奈

「今日星きれい」

未央奈、空を見上げる。

未央奈

「…綺麗。」

同じように空を見上げる2人。

22.

店近く・夕方・外

世奈と一緒に石段に座っている未央奈。

未央奈

「あーもうちよっとー。マジでやだ。」

世奈

「頑張っつて。」

世奈が笑って言う。その前を優真が通り過ぎ、目が合う未央奈。

未央奈

「…。」

優真 「あれ、何してんの？こんなところで。」

未央奈 「バイトまで時間あつたんで暇潰してました。」

優真 「もう時間だよ。」

未央奈 「はい…。」

未央奈立ち上がる。横では世奈が意味深な微笑みを浮かべ、未央奈に続いて立ち上がる。

未央奈、店に向かう優真に続く。

後ろから世奈が声をかける。

世奈 「頑張って。」

未央奈振り返ってうなづく。

優真、少し後ろを振り返ってから未央奈をみる。

優真 「いい友達だね。」

未央奈 「…。」

23.

バイト店・夜・内 \* \*

24.

バイトからの帰り道・夜・外 \* \*

優真と未央奈、二人並んで歩いている。優真は自転車を押しながら歩いている。

優真 「なんで未央奈ちゃんは

未央奈 「いいんですよ別に。お金のためだけなんで。」

優真 「その強さが羨ましいよほんとに。」

未央奈 「…家でも慣れてるんで。」

優真 「…まだ高校生だよ。」

未央奈 「先輩だけですよ、まだ高校生って…まあ送って  
くれなくてもいいって言っても着いてきますもん  
ね。」

優真 「いやいや、流石にこんな時間に暗いところ人で  
帰らせられないよ。普通に危ないでしょ。」

未央奈 「それで本当に送ってくれてるこの方が怖いで  
す。」

優真 「えっ、確かに俺も家知っちゃってるわ。これっ  
て、もしかしてやばいか。」

未央奈 「知らないですよ…。」

未央奈、顔を下げる。

優真 「まあでも困ったらさ、頼っていいんだよ。俺も  
どれだけできるか分かんないけど、年上だし、一  
応大人だしね。」

優真、未央奈の顔を少し覗きこむ。合わない目。

優真が顔を正面に戻すと未央奈が少し顔をあげ、  
優真の横顔を盗み見る。

優真 「じゃ、今日はここら辺で。また。」

未央奈 「…はい。」

優真自転車に乗って、来た道に戻っていく。

未央奈、その後ろ姿をしばらく見つめた後、家へ  
入っていく。

25.

久野家・夜・内

\*

未央奈、扉を開けて玄関に入る。

母

「出て行って！」

26.

公園・夜・外

公園にゆっくりと入ってくる未央奈。

そのままトボトボと歩きベンチに近づくと

携帯を取り出し、メッセージアプリを開く。

少し迷うように指先が揺れるが、画面上部をタップし、テキストを打ち込む。

27.

草間家・夜・内

パソコンの画面を見つめている優真。画面は就活情報で一杯になっている。ため息をつき、頭を抱える優真。

手元に置いていた携帯がブーっと鳴る。未央奈からメッセージが届き、タップして開く。画面には「助けてください。」の文字が。

急いでテキストを打ち込む優真。画面では何往復かやり取りがされている。（優：「どうしたの？」未：「家追い出されて」優：「今どこにいるの？」）

優真、携帯を手にチャットを開いたまま返信を待っている。少し間が空いた後、「○○公園です。」とテキストが届く。

優真、すぐに返事を打ち込み、上着、財布、鍵をポケットに入れる。携帯画面には「待ってて。」の文字が写っている。

ベンチに俯き気味に座っている未央奈。靴で砂をいじっている。

優真、公園の入り口に小走りで入ってくる。

未央奈の姿を見つけると、少し速度を落とし早足気味に近づく。

「未央奈ちゃん…。」

未央奈、後ろ姿を向けたまま優真を振り返らない。

「…。」

「…。」

「すみません、呼び出しちゃって。ちょっと試してみたかったです。どこまで行けるのかなって…。」

「…。」

未央奈、ベンチから立ち上がって優真の方を振り返る。

「…頼っていいって言ってくれたじゃないですか。言ってみただけです。」

「ほんとに?」

「…。」

「家、帰れないんじゃないの?」

未央奈、俯く。

「

未央奈、ゆっくりと優真に近づき、その胸に抱きつく。

優真、未央奈を離そうと肩を掴みかけるが、触れないまま、手を引つ込める。  
夜の公園に立ち尽くす人。

29. 通学路・朝・外

世奈、通学路を歩いている。ブーっと通知音が鳴る。

携帯を開くと未央奈から連絡がきている。

（「今日の夜空いてる？」）

世奈、嬉しそうに返信する。（「うん」）

30. 公園・夜・外

未央奈 「付き合いました。」

世奈 「えっ。」

ベンチに横並びに座っている世奈と未央奈。

世奈手を叩いて祝福する。

「まじーすい」

31. バイト近く・夕方・外

惚気る未央奈。

32. 相沢家・夜・内

体のことについて悩んでいる世奈

33.

学校廊下・朝・内

廊下を歩いている世奈。

女子生徒〇人とすれ違う。

女子1

「マジでやばいよね…。」

世奈、その〇人を少し振り返る。

34.

教室・朝・内

世奈、教室に入ってくる。

みのりとさきが机の周りで話している。

〇人の近くまで歩いて行き、話しかける世奈。

世奈

「おはよ。」

さき/みのり

「おはよ。」

世奈、自分の机に鞆を置き、教室を少し見渡してから、再び〇人が座る机に寄っていく。

近くの椅子に腰掛けながら

「今日、なんかあるの？」

「え？なんで？」

「みんななんか騒いでない？」

「世奈知らないの？」

「何が？」

みのりとさき少し顔を見合わせる。

「いや、なんか、陽菜ちゃんいるじゃん？」

世奈、頷く

「なんか彼氏とのプライベートの写真が、出回ってるらしくて。」

世奈

「え…。」

さき

「ひなちゃんが自分でそんなことするはずないから、その彼氏：高橋くんから広がったんじゃないかってみんな言ってる。」

35.

西山家・夜・内

真つ暗な部屋の中、布団を被りベッドにうづくまつている陽菜。

布団から顔を出し、スマホの画面をタップする。

陽菜の顔が画面の光に照らされる。

時間を確認した後、ゆっくりと起き上がる。

36.

公園近く・夜・外

歩いている陽菜。公園を見ると人の姿。慌てて隠れる陽菜。

37.

公園・夜・外

未央奈

「聞いた？西山さんのこと。」

世奈と未央奈が隣同士座っている。

世奈

「うん。やばいね。」

未央奈

「高橋やっぱめっちゃきもいわ。：西山さんもさ自業自得じゃない？」

世奈

「え？」

未央奈

「だってさ、普通に撮らせてるのやばくない？」

世奈

「でも、流石に無理やり言われたとかなんじやな  
さか。」

未央奈

「それにしてもでしょ。本気で嫌がればいいし、  
そもそもそんなやつと付き合ってたのが意味分  
かない。」

世奈

「…うーん。」

38.

パーク・昼・外

遊びに出掛けている4人。世奈、未央奈、優真、  
藤田斗真(21)。

39.

駅・夕方・外

駅前に立っている世奈、未央奈、優真、斗真。

「じゃ、気をつけて帰ってね。」

「うん。ありがとう。」

世奈、ぺこりと頭を下げる。

優真、斗真に背を向けて歩き出す未央奈、世奈。

優真、斗真、2人に振っていた手を下ろし、反対  
方向に歩き出す。

しばらく黙ったまま歩きすすむ優真と斗真

「今日はごめんな付き合ってもらって。」

「別にいいけど。」

斗真

優真

40.

電車・夕方・内

電車の中、横並びに未央奈と世奈が座っている。  
未央奈は窓の外を眺め、世奈はその隣で気まずそ  
うに下を見つめている。

そのまま一言も話さない人。

41. 草間家・夕方・内

机の上のパソコンに向かう優真とその横でつまらなそうにスマホをいじる未央奈。  
構ってくれない優真に不満気な未央奈と就活に焦っている様子の優真。

42.

陽菜パート未定 陽菜とE

43.

陽菜パート未定 陽菜とE

44.

草間家・夕方・内

未央奈

「これってさ、付き合ってる意味ある？」

未央奈

「私、ボランティアが必要な人じゃないよ？そっやってサポートみたいなのやめてよ！」

45.

塾からの帰り道・夜・外

世奈、公園を通るも、誰もいない。

久しぶりに未央奈から連絡が入る。

46.

公園・夜・外

世奈の誕生日。

約束の場所に来ない未央奈を数時間待っている世奈

逃げ帰る陽菜

47.

久野家・夜・内

未央奈の携帯に通知が入る。

激しく言い合う未央奈と母親。

未央奈、優真に電話をかける。

48.

・夕方・内

優真、就活中。

優真の携帯がブーっと鳴っている。

「熱意が伝わってこない。」と言われる。

49.

草間家・夜・内

疲れた様子で入ってくる優真。

荷物をドサッと机に放り投げる。

言われたことを思い出し、頭を掻きむしる。

「やりたいことってなんだよ。」

携帯に目をやると未央奈から数件の通知。

携帯を持った手をドサッと下ろす。

手で顔を覆う。

50.

相沢家・夜・内

シンクに食べ終わった食器と蠟燭の残骸。  
片付け終わり、リビングに戻ってくる。  
ふと仏壇が目に入り、その前に腰を下ろし、手を  
合わせる。  
仏壇に今日あったことを呟く世奈  
顔を埋める世奈。

51.

西山家・夜・内

泣き腫らした顔をしている陽菜。携帯には日からの連絡が入っているが怖くて開けていない。

52.

草間家・朝・内

スーツに着替えている優真。  
携帯を手にし、通知欄を確認する。  
携帯をしまい机の上の資料を持って出掛けている。  
く。

53.

久野家・朝・内

ベッドの上に置かれた携帯のアラームがなっている。途中で切れ、ロック画面に優真からの連絡通知がうつる。  
布団を頭まで被り、動かない未央奈。  
部屋の中はモノが散乱している。

54.

相沢家・朝・内

鏡の前で腫れた目を気にしている世奈。  
慌てて家を出ていく。

55.

通学路・朝・外

自転車を漕ぐ世奈。

56.

学校前・朝・外

自転車からおり歩く世奈。

みのりとさきに遭遇。挨拶。

「ねえねえ聞いた？水原逮捕されたいらしいよ。」

学校に入っていく3人。

ちきわ